

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年12月調査)

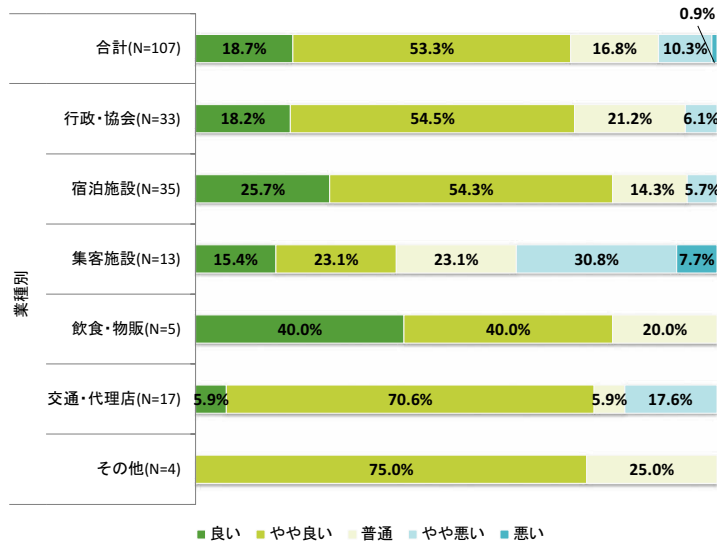
「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年12月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:107、回収率:38.4%、回収期間:2023年12月20日~2024年1月5日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (10月~12月)	見通しDI (1月~3月)
合計(N=107)	69.6	54.0
行政・協会(N=33)	71.2	56.8
宿泊施設(N=35)	75.0	39.3
集客施設(N=13)	51.9	59.6
飲食・物販(N=5)	80.0	80.0
交通・代理店(N=17)	66.2	60.3
その他(N=4)	68.8	81.3

10~12月の熊本県の現状判断DIは69.6となり、前期(67.7)から1.9ポイント上昇した。今期も全ての業種でDIが50を上回り、総じて好況が続いていると言える。コメントをみると、前回調査に引き続きインバウンド需要の増加が言及されていることに加え、TSMCの進出、通潤橋の国宝指定など地域性のあるトピックが好況を支えている。一方、物価高騰による家計の観光・レジャー支出額の減少を指摘する声もあった。見通しDIは54.0となり、前回(65.1)から11.1ポイント低下したものの、引き続き、業況判断の節目となる50を上回る状況である。今後「良くなる」「やや良くなる」要因として、台湾からの新規就航便の影響や団体客の予約増が理由として挙げられた。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」の回答では、宿泊割引が終了すること、冬場のイベントの不足感が指摘されている。

2. 10~12月期の動向、景況感

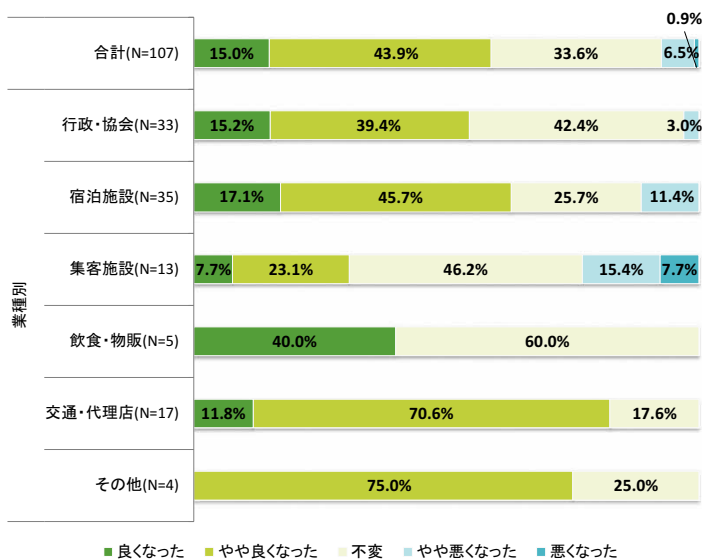


10~12月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が72.0%、「悪い」「やや悪い」は11.2%となった。

【コメントの抜粋】

- 良い
11月のバドミントン世界大会や学会等及びインバウンド(宿泊施設)
通潤橋の国宝指定されて、知名度が上がったから(行政・協会)
- やや良い
全国旅行支援の公開もありコロナ以前の数字を超えることができた(交通・代理店)
天候が良かった。コロナが5類に移行したことにより人の往来が増えた(宿泊施設)
コロナ禍以前に戻りつつあるのを感じる(行政・協会)
- 普通
2019年とほぼ同じになった(宿泊施設)
- やや悪い
物価高騰につき個人のレジャーに回す予算が足りない(集客施設)

3. 7~9月期に比べて10~12月の動向、景況感

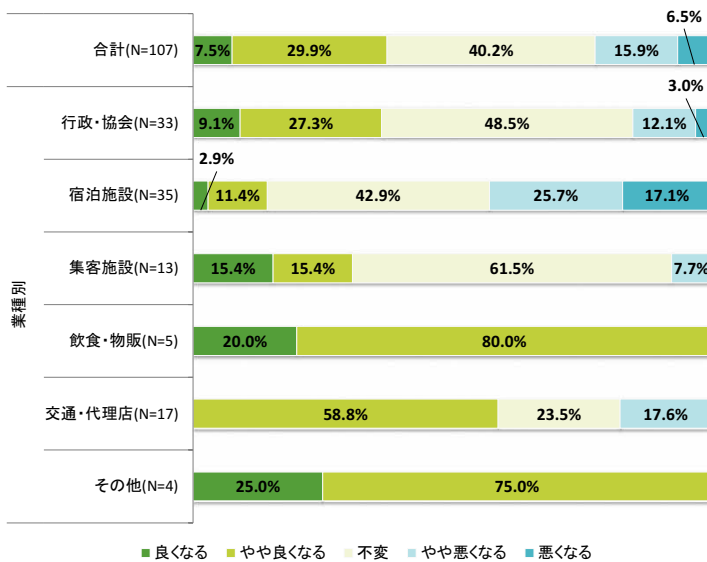


7~9月期に比べて10~12月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が58.9%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で7.4%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
TSMC関連の業者様の御利用(宿泊施設)
- やや良くなった
引き続きコロナと豪雨災害前の水準までは回復していないが、前期よりは回復している(行政・協会)
7月にくまモンスクエアがリニューアルオープンして以降、観光客が増加傾向(行政・協会)
くまもと行くモン旅割りなどの旅行支援の利用が多かった(宿泊施設)
- 不変
両シーズンともに修学旅行・一般客が安定して訪れ、夏休み等の要因などを勘案しなければ安定した推移を見せた(集客施設)
稼働率をみても変化が少ない(宿泊施設)
- やや悪くなった
観光意識の低下を感じる(宿泊施設)
- 悪くなった
旅割などの割引がなくなったのが要因の一つだと思います(集客施設)

4. 今後、2024年3月までの業況の見通し



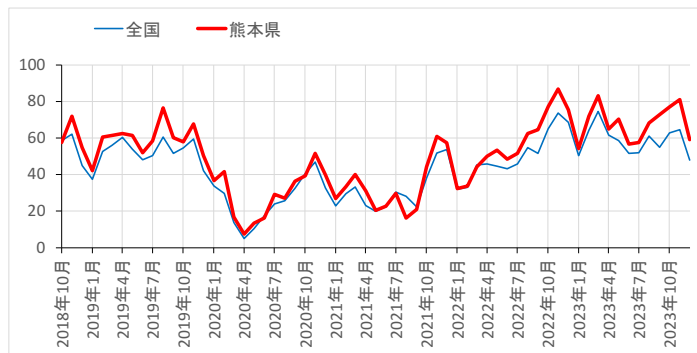
今後3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は37.4%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は22.4%となっている。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
アジア圏に近く、台北線及び香港線の就航により、インバウンド需要が今後もさらに増加することが予想されるため(行政・協会)
- やや良くなる
インバウンドの予約が堅調になりつつある。2.3月にグループ予約が入りだしている(宿泊施設)
予約動向を見てみると、徐々に右肩上がりに増えてきているため(交通・代理店)
- 不変
値上げが段階的に続いているため(集客施設)
海外の団体は増えているが、日本人観光客はあまり増えていないため、結果変わらないと思う(集客施設)
- やや悪くなる
南阿蘇鉄道のトロッコ列車運休期間であり、冬季の道路状況等で観光客の出足が悪い(行政・協会)
寒くなり魅力的な観光地イベントなどが無い(宿泊施設)
- 悪くなる
宿泊割引終了、人手不足による営業の縮小(宿泊施設)

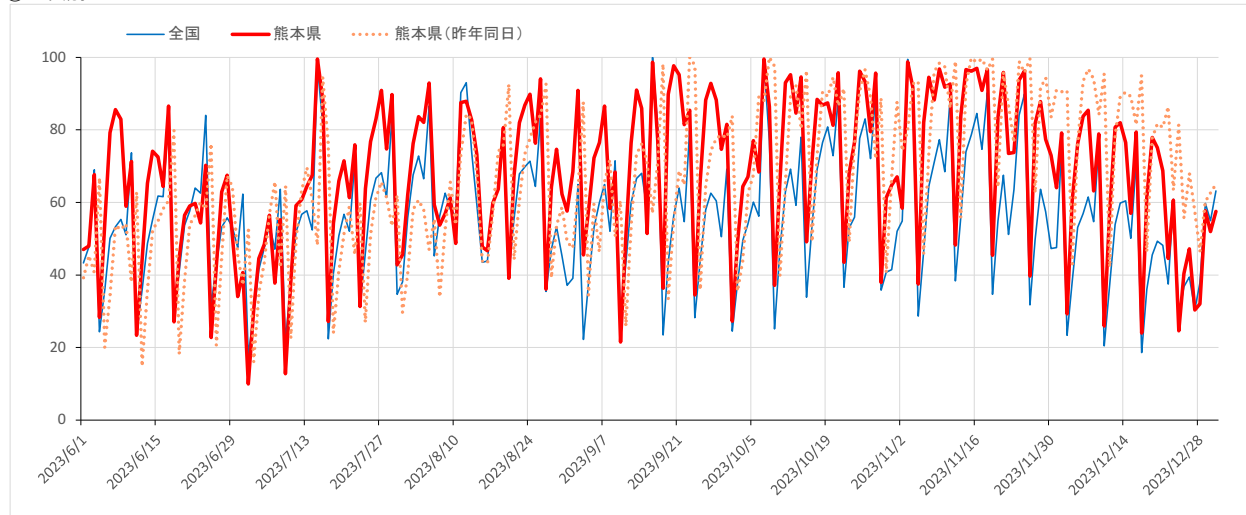
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



2023年10月における熊本県の宿泊稼働指数は77.0(前年差▲0.1pt)、11月は81.0(同▲5.8pt)、12月は59.1(同▲16.3pt)となった。
感染状況の落ち着き、全国旅行支援の効果から、前年に宿泊稼働指数が高く推移していたこともあり、直近3カ月において宿泊稼働指数は前年差マイナスとなった。しかし、全国と同指数と比較すると、引き続き、熊本県は高位で推移している。
エリア別でみると、水俣・芦北地域、宇城地域では前年差で上昇幅が大きかった。一方、菊池地域、天草地域では低下幅が比較的大きい。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、11月までは土曜日を中心に90を超える日が多くみられ、3連休初日であった10/7(土)には期間中最高の指数99.5を記録した。12月に入ると、土曜日を山とする指数の周期に変化はないものの、指数が90を超える日はなかった。これにより、11月から12月にかけて高い稼働状況を維持した前年を下回った。ただし、年末はほぼ前年並みに落ち着いた。
全国の同指数においても同様の傾向がみられた。全国と熊本県の指数を比較すると、年末にかけて全国が熊本県の指数を上回る一方、それ以前の期間ではほぼ毎日、熊本県が全国を上回っており、特に月曜日から木曜日にかけてその傾向が強かった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。